2021.4

vol.10

特集
“COCOLO” 相談支援センター

クローズアップ ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会
http://www.kashima-yuai.or.jp

理事長平田純博の

進加論

法人設立30周年を迎えて

社会福祉法人加島友愛会
理事長
平田 純博

1991年3月22日、加島友愛会は社会福祉法人として設立認可を受けました。本年、社会福祉法人加島友愛会は30周年という節目を迎えました。

1991年12月加島希望の家開設当時1事業、職員14名、利用者実数40数名からスタート、30年後の今日、加島友愛会は35事業、職員372名、利用者実数約1,100名まで福祉事業は拡大しました。

東之町会役員の桝形豊吉、前田吉次郎、西岡一雄、中田市松、川口清吉（設立当初の役員）ら大先輩たちの取り組みにより、1956年（昭和31年）に「財団法人加島保育園」許可、同年開園に至りました。

加島友愛会が「財団法人加島保育園」の基本財産を継承（寄附行為）して設立したことから考えると、今年は通算66年目ということになります。厳しい部落差別の現実から「良き日」を夢見て地域の改善、住民の生活の自立、福祉の向上に立ち上がった先人たちに敬意を表すとともに、今日の加島友愛会の礎を築かれたことに感謝申し上げたいと思います。

1964年の同和対策審議会答申の頃から国・大阪府・大阪市の同和地区への行政施策が本格化する中で、1973年4月「財団法人加島保育園」は公立化（市立加島第1保育所）され財団法人の事業活動は休止状態になりました。

財団法人が休止状態にあることから所轄庁の大阪府が「法人廃止」「資産国庫返納」を打診してきたので、東之町、部落解放同盟加島支部、同和事業促進加島地区協議会3者で財団法人を再建し活動再開するということもありました。

他方、美津島中学校生徒による「月光仮面差別投書事件」、三津屋地区で母親が知的障害のある子どもを道づれに心中するという悲惨な事件が発生しました。

この二つの事件を総括する中で、現在の同和事業の在り方、部落解放運動の在り方を見直すべきではないかとの問題意識が生まれました。

周辺住民との連帯意識を醸成する事業・運動はどのように構築するのか、社会から差別・隔離されている被差別部落内外の障害者の問題や「親亡き後の障害児の行く末」問題などどう取り組めばよいのか大きな課題と財団法人は意識するようになりました。

こうした流れ、部落の中だけでなく部落周辺に、部落差別だけでなく障害者差別に視点が広がり、「財団法人加島保育園」は、社会福祉法人を設立し知的障害者福祉施設を設置運営することを決定しました。

法人の設立第１号施設「加島希望の家」にて初めての入園式（写真右から２番目が平田理事長）

加島のあかりちゃん

設立30年間の活動を踏まえて、ここから先の10年を見据えた中期計画（レインボープラン）を策定します。

1 安定した福祉サービスを展開し着実に前進します。

- サービス付き高齢者向け住宅を6月に介護付有料老人ホームへリニューアルします。施設名称を「リベルテ加島」に変更します。
- 2021年度に行われた介護・障害報酬改定や制度変更の研究をすすめ、早急に対応にします。
- 住民送迎事業では、新型コロナワクチン接種会場の想定がある淀川区民センターを一時停留所とします。

2 加島友愛会の新規事業、重点課題

- 機能訓練特化型のデイサービス「ミント」は食事、入浴等の多様化するニーズへ対応を検討します。
- 「加寿苑（特養）」では入居率を一定に保ちながらも、人材育成を進め夜勤者の増員を行います。
- 地域住民のニーズ調査、利用者の満足度調査を実施します。
- 法人30周年の記念誌を通じて、30年の証を記録していきます。

3 加島友愛会全体の組織運営の強化

- 地域と連携し事業運営を図ります。
- 事業の効率化・健全経営のため、しっかりとした経営分析を行い、課題共有をし、事業計画を実行します。
- 介護経験の浅い職員向け基礎研修をはじめ、法人研修の充実を図ります。
- 働き方改革の一環として勤務時間・年間休日変更を段階的に進めます。
- 感染症・災害に備え事業継続計画（BCP計画）の策定を行います。

かしま障害者センター

01

Link

1 一人でも多くの障害のある人達が社会で働く事を目指して取組みます。

- 様々な分野の作業をプログラムに取り入れ適性を図り、働くための準備を支援します。
- 企業体験実習を実施し就職までのイメージを形成できるよう支援します。
- 地域をリードする支援実践を目指します。

障害者就労支援事業部

2 安心して働けるよう様々な社会資源を活用し就業生活をサポートします。

- ジョブコーチによる専門的な支援を行い、職場適応や定着に向けて支援します。
- 丁寧なアフターフォローで職場の変化や離職危機に対し迅速に対応します。
- 啓発事業により就労支援を啓発します。

むつみ

3 一人ひとりが充実した日常生活・社会生活が送れるようにサポートします。

- 軽作業やレクリエーション、外出活動などそれぞれの利用者に合わせたプログラムを実施します。（生活介護事業）
- 働く事への意欲を高め、一人ひとりの力が発揮できるよう支援します。（B型事業）

地域生活支援部

4 地域生活に必要なスキルの獲得と自立度の向上をサポートします。

- 食事、入浴、金銭管理など必要な介助を行い、日常生活をサポートします。
- 自分でできる事には個々のペースにあわせた助言を行い、精度の向上を図ります。
- 地域行事などの社会参加を促進します。

“COCOLO”相談支援センター

5 地域における障害者の生活支援および相談支援を総合的に担います。

- 生活リズムの確立や病状の安定等を目的に、気軽に参加できる活動を提供します。
- 精神障害者の支援に特化しながらも、障害種別や内容に関わらず住み慣れた地域で生活できるようさまざまな相談に応じます。

ル・プラス

6 利用者と雇用契約を結び、安定した収入が得られるように支援します。

- 利用者の能力・状態・障害特性に合わせた働き方を提供します。
- 様々な就労支援のサポートを実施し、一般就労の実現を目指します。
- 協力し合える職場づくりを推進します。

加寿苑

02

加寿苑（全体）

1 地域に密着した施設を目指し、住民の信頼を高める活動を追求します。

- 高齢者の福祉ニーズに対し、事業所間で連携しながら適切なサービスへ繋げます。
- 地域の高齢者と家族が、気軽に相談できるよう、地域に出向き関係づくりに努めます。
- 地域の福祉・医療機関と連携を強化します。

特別養護老人ホーム

2 安心して望む暮らしが継続できるよう、サービスの質の向上に努めます。

- 多職種でのカンファレンスを定期開催し、ケアプランに基づくケアを実践します。
- 入浴業務の見直しを行い、介護技術やケアの資質向上を図ります。
- 実習生の受け入れや人材育成を強化します。

デイサービスセンター

3 地域福祉の拠点として、地域より選ばれ信頼される施設を目指します。

- 利用者のニーズと生活状況の把握に努め、より良い在宅生活の維持を支援します。
- 様々な相談に対して対応できるように関係機関と連絡調整を行い連携していきます。
- 利用者の安心・安全の確保に努めます。

ケアプランセンター

4 地域のニーズに応え、地域から信頼される事業所を目指します。

- 可能な限りその人らしい自立した日常生活を送れるように支援します。
- ケアマネジメントの質の向上と公正中立の確保を意識した連携・対応を行います。
- 多くの関係機関との連携に努めます。

淀川区西部地域包括支援センター

5 地域住民から信頼して継続的に相談してもらえる拠点を目指します。

- 地域包括ケアの中核的機関として公正で中立性の高い事業運営を行います。
- 周知活動を行い、関係機関や地域との顔の見える関係の構築を目指します。
- 職員の更なる専門性の向上を目指します。

ホームヘルプセンター

6 安心して在宅での生活が継続できるように、必要な支援を行います。

- 利用者にとって安心して安全な生活が過ごせるよう必要なサービスを提供します。
- 医療を含めた多職種との連携を円滑にするため、情報の共有化に努めます。
- 効率的な運営を見据えた検討を始めます。

加島希望の家

03

1 安心して過ごせる環境と、充実した活動を提供します。

- コロナ感染予防対策を徹底、環境や活動内容も工夫し安定した支援を提供します。
- 利用者の状況に合わせ、運動・リハビリ活動を提供し健康維持に努めます。
- 落ち着いて過ごせる環境を提供します。

2 障害特性など理解を深め、支援の質の向上と共に人材育成に努めます。

- 研修へ派遣し、専門知識の向上に努めます。
- 定期的に学習会やケース会議を開催し、支援の質を高めていきます。
- 新たなチャレンジをする機会を設定し、新人・中堅職員のスキルアップに努めます。

3 利用者・家族の高齢化へ柔軟に対応できるよう準備を進めます。

- 職員の介護技術向上を目指し、講義・実技の機会を設け実施します。
- 利用者がスムーズに他のサービスも利用できるよう関係機関との連携強化に努めます。
- 将来へのニーズ等の調査を実施します。

アンダンテ加島

04

1 入所者の方の重度・高齢化に対応した環境整備を進めます。

- 利用者の方に合った日課や活動内容を提供します。
- 高齢ユニットの職員配置や環境等を整えていくとともに、当法人の高齢者施設と連携し情報収集に努めます。

2 継続可能な職員体制を構築し、職員の資質向上に努めます。

- 実習生やインターンシップを積極的に受け入れ、学校等との関係をより強めます。
- 積極的に研修に参加します。IT環境を整えWEB研修を含め、より多くの知識や専門技術を習得し実践します。

3 感染症・事故の防止や防災に対する対策を強化します。

- 感染症対策として、衛生管理・必要物品の確保・情報収集に努めます。
- 感染症や事故予防、防災対策のマニュアル整備や研修を充実させ、リスクを最小限に留められるようにします。

リュミエール加島

05

リュミエール加島 介護付有料老人ホーム

1 生活を継続的に支える為に、介護ニーズに応えられるよう柔軟に対応します。

- 看取りケアなど実践的な研修を取り入れ、介護・看護スキルを身に着けることで、職員の自信や働きやすさに繋げます。
- 認知症実践者研修を通じて、認知症の方への理解を深め、チーム力を向上させます。

2 ICT化に伴って、施設の情報発信、家族との交流の機会をより強固にします

- 根拠（エビデンス）に基づく介護報酬の算定に向けて業務修正を効率よく行っていきます。
- 感染症、自然災害などあらゆる緊急時にも利用者のニーズに応じたサービス事業の継続ができるようBCP（業務継続計画）を策定します。

リュミエールミント

1 在宅で継続的に暮らせるように自立支援・介護予防に努めます。

- 理学療法士の指導のもと、トレーニングマシンを用いて筋力の維持や体力作り・認知症の進行予防に繋げていきます。
- 利用者のニーズに応じて、リハビリに限定しないサービス体制を構築していきます。

リベルテ加島 介護付有料老人ホーム

1 サービス付き高齢者向け住宅から、介護付有料老人ホームに一新します。

- 利用者の様々なニーズに合わせ、24時間介護サービスを受けられる体制に変わります。
- 相談員、ケアマネージャー、介護職員、事務職員一体となって、利用者に寄り添う施設づくりを行います。

2 在宅医療、施設介護・看護の連携を図り、安心な住まいを提供します。

- 協力医療機関と連携し、利用者に安心、安全な生活を提供します。
- 地域に受け入れられる施設を目指し、高齢化社会を見据えたサービスを提供できる体制を構築します。

ヘルパーステーション トレフル

1 利用者・家族の生活ニーズに応じた身体的・精神的支援を図ります。

- 通院付添や身体介護・生活介護・同行援護の要望に応えらえるように、登録ヘルパーを増員し、体制を構築します。
- BCP（業務継続計画）を作成し、感染症・自然災害対策に備えます。

ui topics

リベルテ加島
サービス付き高齢者向け住宅から介護付き有料老人ホームに変わります。

リュミエールミント
祝日もオープンへ変更します。介護スタッフに加え、理学療法士も常駐しています。

採用戦略委員会
2022~23年度新卒者採用に向けてインターンシップの実施やオンライン施設見学などを行います。

寄付のお礼

2020年度、株式会社クボタ様より『ピュアウォッシャー（大型空気清浄機）』、株式会社ダイヘン様より多大な寄付金を頂きました。ピュアウォッシャーは、かしま障害者センターの食堂に設置させて頂き、コロナ禍における衛生面での利用者・職員の安心感に繋がっています。また、頂いた寄付金は訓練先への送迎車両や、フィットネス器具、大型テレビ等、数多くの備品を購入させて頂きました。どちらも、毎日過ごす空間が充実したものになり、利用者の皆さんも大変喜んでいます。私たちも寄付頂いた物とお気持ちを大切に、より良いサービスの提供に繋げていきます。本当にありがとうございました!

(株)クボタ様　寄贈　大型空気清浄機

(株)ダイヘン様　寄贈　軽自動車

(株)ダイヘン様　寄贈　トレーニングマシーン

クローズアップ
“COCOLO”
相談支援センター

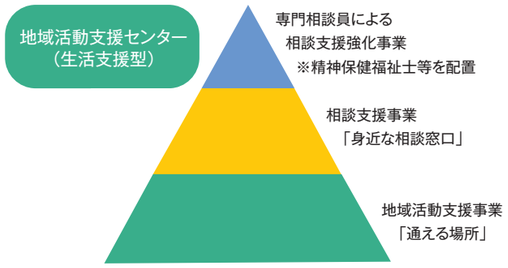
制度の隙間を埋める、しんどいとき寂しいとき立ち寄れる居場所 精神障害者の地域生活をそっと支えるための専門知識をもったサポーター

加島のひかるくん

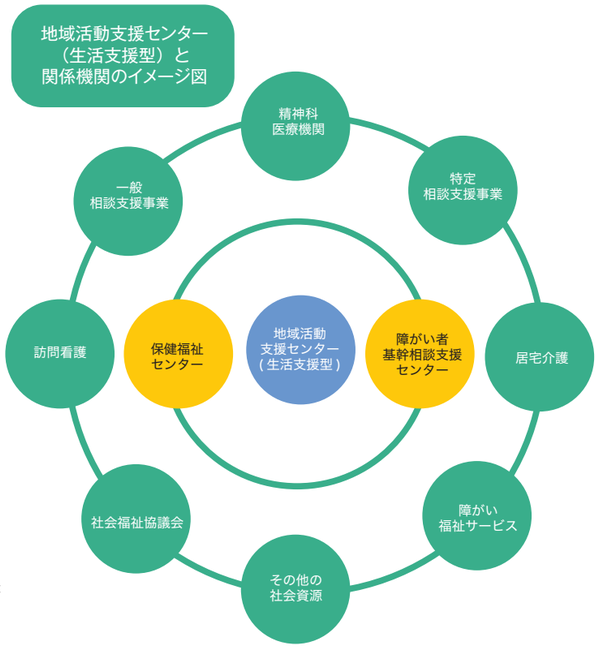
■地域活動支援センター（生活支援型）
- 地域活動支援事業
- 相談支援事業
- 専門相談員による相談支援強化事業

●大阪市住宅入居等支援事業
●大阪市精神障がい者地域生活移行推進事業
●大阪市障がい者緊急一時保護施設退所支援事業
●大阪市在宅障がい者等に対する安否確認等支援事業

■特定相談支援事業
■一般相談支援事業
（地域移行支援・地域定着支援）



“COCOLO”相談支援センターは大阪市から委託された事業です



生きていく上でさりげない大切な支援

――“COCOLO”とはどのような場所なのですか?

萩原　主に精神障害などのある方が出かけて行ける「居場所」であり、気軽に相談できる場所。電話でも相談でき、地域で暮らしていくうえで必要な支援の段取りをしたり、直接お手伝いすることもあります。

利用の仕方は、センターのサロンに通ってこられる方、電話の相談だけの方などさまざまです。精神科の病院に長期間入院されている方の退院のお手伝いもします。利用にあたって障害支援区分や受給者証は必要ありません。一人でいろいろなサービスを利用されている方も多いので、医療、行政、ホームヘルプ、就労支援などの関連機関との調整も行いますし、関係機関から相談や助言を求められることも多く、専門的な知識が必要とされます。

サロンに来られる方も、毎日、週1回、月数回など、また滞在時間も一日中、午前中だけ、雑談だけして帰るなど、生活リズムや目的、体調や気分などに応じて自由に利用していただけます。生活リズムを付けたほうがよい方には、なるべく曜日を決めて来てもらうよう声をかけることもあります。サロンではレクリエーション、軽作業、食事会、季節の行事など、参加自由の日替わりプログラムを用意しています。

障害の有無に関係なく、気軽に立ち寄れる居場所はとても大事で、雑談したり話を聞いてもらうだけで安心できる。こうした場所がないために体調を崩されたり、病状が不安定になったりする方もおられます。

――相談はどのようなものですか?

萩原　行政サービスの手続きなど制度に関するものから、生活上の相談、例えば電球切れたとか、ゴミ出しの日がわからないといったものまで幅広いです。自宅を訪問することもあります。いずれも立ち話のようにサラッと応じる場合が多いです。

精神障害などのある方が制度上ヘルパーを利用できるようになったのは2002年からです。それまでは私たちが通常の業務の合間を縫ってヘルパーと似た支援を行っていました。掃除を手伝ったり、体調を崩した方の食事を作ったり。今でも場合によってはそうしたことも行います。生活に関する相談は全てお受けして、解決の手助けをするという基本は変わりません。

――今後の課題は何でしょう。職員の数やスキルは足りていますか?

管理者
萩原浩史
（はぎわらひろし）
支援課長、管理者。精神科病院の勤務を経て2004年入職。博士（学術）。趣味は岩波文庫を読むこと、散歩、掃除・片付け。

萩原　全国的に見ると予算は削られる傾向にあります。

「居場所」と「相談」の機能を切り離している市町村も少なくないです。集まって過ごしているだけのように見える「居場所」にどのような意義があるのか。どんな時代でも生きていく上で社会との接点は持っていないより、持っていたほうが良い。相談できる場所もあれば尚良い。こうした日頃の実践や取り組みをわかりやすい言葉で伝えていくことが職員全員の課題です。

Column1 コミュニケーション手段

知的障害と精神障害の支援の違い

――失明されて「アンダンテ加島」から移ってこられたそうですが、お仕事で困ることはありますか?

湯山　ほとんどありません。2016年に休職し、1年半ほど歩行や音声パソコンの練習などをしてこちらに移りましたが、現在では通所されている方への対応や電話での相談、プログラムの運営、事務作業のほか、グループホームなど比較的近い場所への訪問など業務全般をこなしています。

――1番大きな違いは何でしたか?

湯山　アンダンテ加島では最重度の知的障害のある方を担当していましたが、コミュニケーションの取り方やものの考え方が全く違うことに驚きました。知的障害の場合は先天的な障害が多く、言葉で意思疎通できない方もいました。一方、精神障害は後天的で誰でもなりうる障害です。それぞれ社会経験を積んでこられています。電話を含めほとんどの方がスムーズにコミュニケーションを取っておられます。適切な治療やサポート、環境を整えれば落ち着いて過ごされ、病状自体が改善に向かうこともあります。そこが知的障害との大きな違いだと感じました。

ただ病状やそのときの状態によって波があり、以前と同じようなお話をしていても、話の本質が伝わりにくいときがあるなど、独特の難しさも感じます。異動して初めての電話相談で、一方的に怒鳴り続けられたんです。ところが次の日に同じ方からかかってきたときには打って変わって穏やかな口調でお話をされるんです。これまでは言葉以外でのコミュニケーション手段を考えていたのですが、言葉かけの仕方や質、説明に必要な量やタイミングが大事だと考えるようになりました。

――異動後でどのような変化がありましたか?

湯山　先輩職員からは言葉がけの奥深さを学びました。対面でこんこんと説明したり、あえて立ち話で軽く済ませたり。聞いていて、うまいなあと感心します。

過去・現在・未来という時間軸のなかで、今必要なことを知りたいはずなのに、過去を振り返ってばかりだったり、逆に先々の不安にとらわれてしゃべり続ける方もおられます。そんなときにタイミングを見計らいながら「今あなたにとって大切なのはこうなので、ここはこうしましょう」と少しずつ伝えられるようになりました。

湯山幸司
（ゆやまこうじ）
指導員。知的障害を伴う自閉症者への支援に興味を抱き2003年、アンダンテ加島へ入職。2017年、COCOLOへ異動。趣味はラジオ鑑賞と投稿。

おもろいこともしんどいことも一緒に ありのままの暮らしにより添う

柔軟な発想で支援を組む 自由度の高さが魅力

――皆さんなぜ精神保健福祉の道へ進みたいと思われたのですか?

山入端　大学で臨床心理学を専攻しました。その中で精神疾患について学びましたが、将来は医療的なアプローチよりも生活場面でのサポートという形で関わっていきたい、それが私の性に合うと思い、専門学校へ行き精神保健福祉士の資格を取りました。

糸川　その経歴はこの三人の共通項ですね。大学で心理学を専攻した後に精神保健福祉の道を志す人は割と多いんですよ。

――実際に精神保健福祉の現場に入られてみてどうでしたか?

山入端　最初の一年は、地域活動支援センターがどういうところなのかよくわかりませんでした。居場所の役割、必要性、どんな支援をすべきなのか、一言で言いがたいものがある。利用者の余暇の場所、それも大切ですがそれだけじゃない。相談を聞いたり、外部の関係機関に繋いだりもしますが、利用者によってするべき支援が全然違う。提供できる支援が型にはまっていないのです。その人にとって何が必要なのか自由な発想で個別に支援を組み立てる。その自由度の高さこそがここの魅力だとわかるまでに時間がかかりました。例えば、住まいがいわゆるごみ屋敷になり困っている方がいる。ところがヘルパーを利用した経験がなかったり、自宅に人が入ることにすごく抵抗があったりする場合もあります。またヘルパーも動線すら確保されていない家の掃除はできないことが多い。制度上、それをする役割の人がいない時、よくその隙間の支援に対応することがあります。その費用はどこからも出ないし行政からもほとんど評価されない。けれども、その先の支援が入るために必要なら率先して掃除をすることもある。その支援に意図があれば自由に対応していいのです。

小嶋　以前の職場ではキャラクターで上手くいっていた部分があったのですが、ここでは電話での相談や連絡調整も多く、顔を合わせたことの無い方の支援もしなければなりません。単発の対応もあるので、サービスや制度を簡潔に説明できる知識が必要です。人と人が関わる仕事なので人柄も重要ですが、新たな知識を身に付ける努力をしないといけないと感じました。また、入職してから地域活動支援センターには「旅立つ」ことも「帰ってくる」こともできる特徴があることに気づきました。例えば、就労したいという希望があるとすると、お互いに関係性を作りつつ、どういう課題をクリアすれば就労にたどり着けるか一緒に考えながら送り出す。「就労したけど辞めてしまった」という場合にも上手くいかなかった理由を一緒に振り返り、もう一度チャレンジできるようバックアップ。そのための「休憩」や「余暇」を提供できる。そういう支援が組めるのも自由度が高いからだと思います。

糸川　私は逆に、入職したばかりのころは知識や制度的なことで頭がいっぱいでした。相談を受けるときも、大した経験もないのにちゃんとした助言をしなきゃと構えていました。でも今は、強みや好きなもの、家の様子や暮らしぶりなど、一人ひとりについて知っていることが増え、より個別の状況に応じた支援ができるようになってきた感じがあります。

神社一式にベルばら コロナ禍で工夫に磨き

――プログラムなども自由に工夫しているのですか?

山入端　中途障害の方がほとんどで、社会人経験もある方たちに子供のころにやったレクリエーションのようなことをしてもウケない。コロナ禍でできないことも増え、この一年程はこれまで以上に考えましたね。

糸川　その点は本当に頑張った。どうやって楽しさと安全性を両立してプログラムを実施するか、そのための方法を考えたり、必要な道具を作ったり、大変だけど楽しいです。

手づくりの神社。ドアを閉めると本殿が現れる

小嶋　最近は新年会で神社一式を作りました。コロナ禍で初詣にも行けない人も多いので、鳥居や賽銭箱、ガラガラ鳴る鈴などを作り、最後にすごろく用に作ったお金をお賽銭にして初詣気分を皆で満喫しました。面白い企画だと思っても興味や関心、満足度はそれぞれ異なりますので、皆に楽しんでもらえるような工夫が難しいところです。

糸川　今は宝塚歌劇のベルばらの巨大ちぎり絵を利用者さんと作っています。パーツごとの製作では互いに距離をとり、同じ紙を複数名が触らないなど自然な形で感染対策ができたり、短時間の参加でも完成時の達成感が大きいなどのねらいがあります。

訪問で得る気づき 「地活らしさ」を大切に

――自宅へも訪問されますよね?

山入端　支援は「地続き」で行います。家でこういうことに困っていると相談を受けたら、実際に行ってみてどんな支援が必要か考える。その場で解決できることもあれば、具体的なサービスを調整することもあります。相談からその後の支援までアクティブに繋がっていることが多いです。

小嶋　訪問することで「自分で掃除できてるんや」「気をつかってお茶を出してくれた」など、こちらが今まで気づいていなかった別の一面を発見できる。それがその人の生活の場や家族との関係のなかで身についたのだと気づかせてくれることに訪問の面白さ、重要性があります。

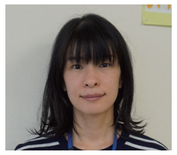
――これからの課題は何ですか?

小嶋　場合によっては相手に嫌がられることも言わなければなりません。それも大切な役割の一つなので仕方がない時もありますが、嫌な気持ちだけで終わるのではなく、利用して良かったなという気持ちが少し勝るくらいのバランスで支援していけたらなと思います。

糸川　私は物事を面白がれる力が人の支えや強さになると思うので、ニヤリ、クスッと笑えるようなものを大事にしたいです。共に楽しく過ごした経験があるからこそ、しんどい局面のしんどい話が膝を突き合わせてできたりもする。楽しい、美味しい、面白い、そういう経験を皆で積んでいけるような場所だといいですね。しんどくなったときにふらっと来たり、寂しいときに電話をくれる方、結構多いですよ。

山入端　「居場所」は精神障害などのある方にとって大切な支援のひとつですが、行政の財政事情次第で運営が大きく左右されるような事業でもあります。大事にしていきたいけれども、特別なことが必要なわけでもない。今ある地域活動支援センターらしさを大事にしてマイペースでやっていければと思います。

山入端瞳
（やまのはひとみ）主任、相談員。デイサービスの勤務を経て2006年入職。趣味は読書（推理小説、漫画）、映画・舞台鑑賞など。インドア生活が充実している。



糸川純枝
（いとかわすみえ）相談員。大学と専門学校を卒業後、2011年入職。趣味は行事食づくり、謎解きゲーム、おいしいものを食べること。

小嶋慧
（おじまさとし）指導員。大学と専門学校を卒業後、NPO法人勤務を経て2016年入職。特技は料理、楽器演奏。最近趣味としてパステル画を始めた。

Column2 入職動機ややりがい

喜んでもらえること

前職では障害年金の請求代行をしておりました。依頼者の多くが精神障害のある方で、病気を抱えた上での苦悩をお聞きする中で「この人たちの生活に携わる仕事に就きたい」と思ったことが、精神保健福祉士の資格を取得するきっかけでした。その後専門学校に通い、就職先として紹介されたのが“COCOLO”相談支援センターでした。当時実習の中で「働くためには上手に休む必要があること、休むことが不得意な人もいること」に関心を持った私は、余暇支援を行っている地域活動支援センターに興味を抱き、面接を受け採用していただき今に至ります。

現在はプログラムの運営に携わっています。「楽しみながら学ぶ」ことに焦点を当てたスマートフォン講座や料理教室、のんびり過ごすことを目的にした茶話会や映画鑑賞などを行っています。また、利用者さんとのミーティングで意見を出し合い、食事会やボウリング大会といった催しを行うこともあります。希望を元にみんなが楽しめるよう工夫を凝らすことは大変ですが、参加した利用者さんに喜んでもらえることが一番のやりがいです。プログラムが功を奏して参加された方の趣味になるなど生活へのプラスを感じられたときは、自分の自信にもつながりました。

プログラムで使う道具はほぼ手づくり

利用者さんの個々の変化を感じ取ったり、世間話の中で課題を見つけることも重要な仕事です。一緒に課題を解決することもありますが、難しいのは「利用者さんの考えを汲み取ること」です。私はまだまだ愚痴を課題と捉えて先走ってしまうことがあるので、これからは変化や課題を見つける敏感なアンテナと、必要な時にすぐに動けるように考え続ける力を鍛えていきたいです。

梶帆乃佳
（かじほのか）
非常勤職員。指導員。2020年入職。前職で障害年金の請求に携わったことで精神障害者の「生活」に関心を持ち、精神保健福祉士の国家資格を取得後、福祉の道へ。趣味は観葉植物収集とあつ森。

サービス付き高齢者向け住宅ファミール・シャルレは、
介護付有料老人ホームに生まれ変わります。

Liberte Kashima

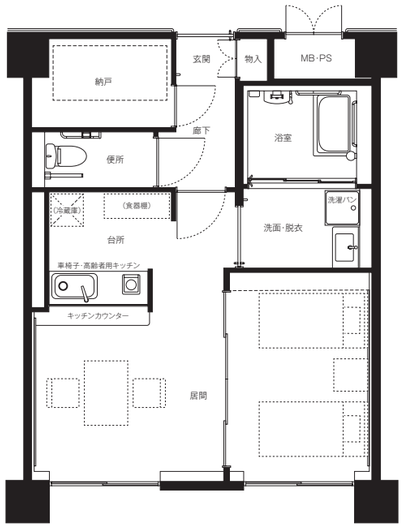
介護付有料老人ホーム リベルテ加島

2021年6月 リニューアルオープン

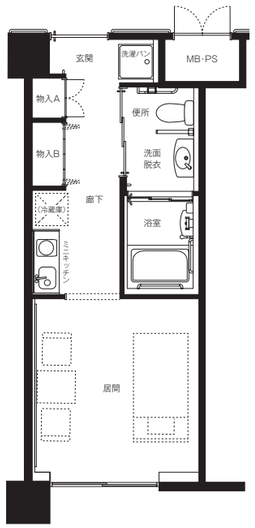
「安心」と「快適」のカタチに いざという時の「介護サービス」が 加わりました。

キッチンとバリアフリーの広々とした空間。
施設入居という安心感と引き続きできる自炊生活。
いつまでも自分スタイルで過ごしたい方に喜ばれます。
急な体調不良や身の回りのお世話が必要な時には、
24時間の介護サービスが利用できるようになりました。

Aタイプ 3階 4階
(50.77㎡/1～2人用)



Bタイプ 1階 2階
(25.2㎡/1人用)



※部屋位置により、左右反転の間取りや形・配置に若干の違いがあります。

Aタイプ利用費用

前払金 0万円	
家賃	125,000円
管理費	(1人入居) 60,000円
	(2人入居) 100,000円
食費	(1人あたり) 47,100円
月額合計	(1人入居) 232,100円 (2人入居) 319,200円

※その他費用　介護保険自己負担分
その他生活費は自己負担

Bタイプ利用費用

前払金 0万円	
家賃	75,000円
管理費	55,000円
食費	47,100円
月額合計	177,100円

※その他費用　介護保険自己負担分
その他生活費は自己負担

サービス付き高齢者向け住宅から

受付の職員による
●安否確認や生活相談サービス
●食事の提供

付添介助が必要な方は、
訪問介護のヘルパーを利用します

介護付有料老人ホームへ

昼夜施設の介護職員による
必要に応じた身の回りのお世話

●起床・就寝時の着替えの補助
●食事介助や服薬の支援
●排泄や入浴のお手伝い
●昼夜の安心の見回り

急な介護やお困りごとに
いつでも対応することができます

生活相談員やケアマネージャーも在籍
※入居者様：職員の人員配置は3：1

加島のひかるくん

カウンターキッチン（Aタイプ）

居間（Aタイプ）

浴室（Aタイプ）

居間（Bタイプ）

食堂

特別浴室

無料送迎バス

1日8便の送迎バスあり
加島駅・十三市民病院・十三駅方面を巡回する送迎バスです。
※送迎運営は同一法人の別事業です。
利用には別途会員登録が必要です。

入居までの流れ

お問い合わせ
介護のお困りごとや不安などをお気軽に相談ください。

→ **ご見学（案内）**
館内での生活をご案内します。

→ **ご面談**
入居される方の心身の状況をお聞きします。

→ **ご契約手続き**
身元引受人が必要となります。
契約にご本人/ご親族等の印鑑が必要です。

→ **ご入居**
安心・快適な暮らしを過ごしていただくためお手伝いします。

入居条件（①・②のいずれか、③は必須）

①60歳以上の方
②介護認定を受けている60歳未満の方
③健康保険に加入されている方

ご相談・お問い合わせ

社会福祉法人加島友愛会
リベルテ加島
0120-991-707

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページは
こちら!

加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

“COCOLO” 相談支援センター
（地域活動支援センター（生活支援型）・特定相談支援事業・一般相談支援事業）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

ケアプランセンター　加寿苑
TEL.06-7651-1600 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen-kyotaku@kashima-yuai.or.jp

ホームヘルプセンター　加寿苑（高齢部門）
TEL.06-6306-6205 FAX.06-6305-0773

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

リュミエールミント　機能訓練特化型デイサービス
TEL.06-6308-7797 FAX.06-6308-7799
e-mail lumieremint@kashima-yuai.or.jp

体験利用
受付中

❼ヘルパーステーション　トレフル（障害部門）

〒 532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❽リベルテ加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6305-5750 FAX.06-6305-5756
0120-991-707
e-mail famille@kashima-yuai.or.jp

6 月
リニューアル
オープン

企画 法人機関誌検討委員会
蓬田高広　西岡剛　真嶋広匡　谷口哲夫
十倉伸二　山下修一　森本亜紀彦　武内恭祐
安間ゆか　芝谷佳代子　内田信也
編集協力 新島洋
デザイン 桐田博子
印刷（財）浪速振興会